

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年6月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871400206		
法人名	有限会社 介健		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地 (電話番号)	茨城県高萩市安良川1843 (電話) 0293-24-1717		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年6月14日	評価確定日	平成19年11月29日

## 【情報提供票より】(平成19年5月26日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	人

## (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	(退居時差引返金)
食材料費	朝食	315 円	昼食 315 円
	夕食	420 円	おやつ 210 円
	または1日当たり 1260 円		

## (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82.7歳	最低 77歳	最高 90歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高萩それいゆ病院・老人保健施設ノア・やすらぎの丘温泉病院・茂又歯科医院
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

もとは経営者の両親の自宅であったが、地域のために役立てたいとの思いから、一部を改修し開設されたホームである。住宅街の一角で、外観も一般住宅と全く変わらないため、利用者も自分の家であるかのように生活している。管理者は、認知症であってもできることがあると信じ、利用者の自主性を尊重している。職員も管理者の思いをよく理解し、利用者と共に生活を送る姿勢をもっている。地域との交流も積極的で、利用者が頻繁に屋外に出ることで地域からよく認知されている。庭には名前の由来であるやまももが植えてあり、季節になると利用者と一緒に実をとるなどの楽しみがある。自宅と同じような雰囲気が、ホームを優しく包みこんでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で挙げられた地域との交流をさらに強化して取り組み、ホーム行事に積極的に地域住民が参加していただけるよう働きかけている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が個別に作成し、それをもとに会議を行った後に自己評価票を集計し作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が発足されて日が浅いため、活発な意見交換の場面には至っていないが地域住民等にも参加してもらっているため、今後高い期待が持てる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は頻繁に来訪しており、そのたびに職員も家族と会話をもつよう心がけている。家族にはホームに対して積極的に意見・提言を行ってもらっている様子で、それによって改善されたところも複数ある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム側が積極的に地域に飛び出して交流をもとうとしているため、地域との連携はとても密である。近隣住民が来訪する機会も多いため、「地域の中にあるホーム」という印象がある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流」や「ふつうの暮らし」といった文言が盛り込まれた運営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員がともに考えた理念であるため、共有化されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会活動に参加したり、ホーム行事に参加していただくよう広報活動も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を行い、それを管理者が集計している。また、前回の外部評価の結果をサービス向上に活用していることを確認できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーも決定しているが、現在のところ1回開催されている。	○	運営推進会議のあり方や、ホーム運営に活用するための方策について、今後検討を重ねていただきたい。

茨城県グループホームやまもも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営に関する情報を積極的に市町村に求めている。また、利用者の要介護認定更新申請は、市担当窓口利用者本人を連れて行うなど、利用者も交えた連携を図る努力を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会にきたときなどに、日頃の様子などを伝えている。遠方に住んでいる家族には、情報を郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族もホーム職員となじみの関係ができており、いろいろな意見を職員に伝えることができ、ホーム側もその意見をもとにサービス向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員のストレス軽減に努めており、もし職員の離職があった場合は家族にもその旨を通知している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回は内部研修を企画しており、その他外部研修に参加した職員は必ず伝達研修を行っている。		可能な限り全職員が外部研修に参加できるよう、ホームとして取り計らうことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流機会がなく、グループホーム連絡協議会にも参加していない。	○	地域の同業者と積極的に情報交換が行えるよう、市町村も含めた今後の活動に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居などを通して、生活場面の大きな変化による利用者のダメージを極力抑える努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家事活動を通して、利用者から教えられることの大さを実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細な介護計画を作成し、利用者の思いを最大限理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、ケアの方針が全職員が共有できるよう取り組まれている。		自己決定能力がある利用者に対しては、積極的にカンファレンスに参加していただけるよう、今後の働きかけが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、利用者の状態変化の把握に努めている。		利用者の状況を見極めながら、枠にはまらない形でのモニタリング日程の設定も検討されたい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や地域に根付いたホームを目指し、体験入居などホームが活用されるよう取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は十分図られており、定期受診を通して医療情報を得ている。		常に医療情報を把握できるよう、定期的に医療情報を取り寄せられるよう心がけたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ該当する利用者がいないためか、具体的には検討されていない。	○	利用者の状態が悪化した場合を想定して、あらかじめ全職員で検討することが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特にプライバシーへの配慮が必要な、利用者の排泄の援助に対し工夫が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の自主性を尊重した、自由な雰囲気がホーム内には感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で日々の献立を考え、ともに調理することを通して食事の楽しさを実践している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に時間帯を設けてはいないが、だんだんと入浴時間が決まってきた様子である。利用者の入浴時間の自由は確保されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭先につくられた小鳥のえさ箱や、庭木の手入れ、家事活動など利用者が各自役割をもって生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にコンビニエンスストアやスーパーマーケットがあり、利用者は頻繁に屋外に出る機会がある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠されている箇所はなく、利用者は自由に出入りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の訓練を行っているのみで、災害を具体的に想定した体系的な訓練は行われていない。	○	地域の消防署と連携を図り、年間を通して防災訓練を行うことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を確認する記録項目があり、詳細に記録されている。		水分摂取量を記録する箇所を追加することで、より詳細な利用者の状態把握が行えると思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改修したホームなので、家庭的な雰囲気がそのまま感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掛け軸や絵画など、利用者の嗜好が見て取れる個性的な居室となっていた。		